



茶

一番茶後の管理 と二番茶対策



農業経営支援課
福手 裕三

《摘採》

一番茶摘採後、45〜50日で二番茶の摘採が始まります。6月上中旬頃から梅雨入り時期と予想されるので、週間天気を確認して工場等の生産計画に沿った適期摘採をしましょう。また、高温・多湿で葉傷みが起こりやすいため、生葉の鮮度維持に努め、良質な荒茶の製造を心掛けてください。

《施肥》

濃度障害による根の傷みを回避するため、速効性肥料の1回の施肥量をちつ素成分で10kg/10a以内にします。二番茶芽の品質を落とさないよう、早めの施肥を心掛けてください。夏肥以降の施肥は、翌年の母葉となる三番茶の生育に影響するので、計画的に進めましょう。

《病害虫防除》

二番茶萌芽から一葉期までに、吸汁性害虫のチャノミドリヒメヨコバイやチャノキイロアザミウマ、チャノホソガや炭そ病、もち病の防除を行います。今年、カンザワハダニの密度が高い傾向にあるので、二番茶芽への発生に注意しましょう。

また、南部地区については、6月上旬頃からナガチャコガネの防除時期になります。使用の際は、各地区の防除規制にしたがって防除してください。
ナガチャコガネ フォース粒剤 3kg/10a
(成虫飛来初期からふ化幼虫期 摘採7日前まで)
6月は農薬危害防止月間です。農薬の使用や保管には注意してください。

《二番茶摘採後のナラシ》

三番茶を摘採しない地域では、二番茶後のナラシをやめる茶園があります。三番茶芽を均一に生育させるためにも、二番茶摘採後7〜10日くらいの遅れ芽が出揃った時期に行いましょう。

《二番茶後の更新》

二番茶後の更新は、早場所では可能な地域もありますが、基本的には行わないでください。その後の気象が干ばつで推移した場合に回復できないことがあります。凍霜害を受け、生育にバラツキが見られる茶園については、樹勢の良否を見て、浅めの更新で芽の均一化を図ってください。